

あとがき

私にとって、今回東京医大誌の「あとがき」を書くことは2回目である。多分これが最後であろう。第1回の時は、本誌を New York Medical Library でみつけた時の感激を書いた様に記憶するが、今回は編集諸先生の御好意から、私の終生の恩師の一人である加藤正明名誉教授の巻頭言をいただき、私が最後の「あとがき」を書く運命になったことに奇しき喜びを感じている。先生の巻頭言は一生を学問に捧げてこられた「ヒト」の面目が躍如としている。たしかに学際化、国際化の発展のため、学者として学問の世界の動きについてゆくだけでも大変な時代になりつつある。またまさに文字通りの情報過多時代で、本当に自分にとって必要なあるいは役立つ情報を選択することが大変むずかしい。学者にとってこの情報選択能力が今や最も大切な能力のひとつと言っても過言でなからう。それにしても大いなる活力をもって学際化、国際化についてゆき、八方にアンテナを回転させ沢山の情報を集めることがまず基本である。昔の学者

の様にひとりで何年もかかってコツコツ積上げる研究の時代は去ったことは NASA の技術成果をみれば明らかである。Multidimensional にチームで一気に仕上げる研究成果でないと、この変動する社会状況の中ではたちまち古びてしまうであろう。その故か自然科学の分野では単独の人より2~3名位の人にノーベル賞を与える傾向が多くなって来ている。近代の学者にとって要求されることは、急速に変動する社会の中での急速に進む学際化、国際化に追いついてゆくための活力と活動性、それによって集めた沢山の情報をいかに收拾選択するかという能力である。怠惰な私にとっては考えただけでもいささか疲れてしまうが、80歳近い恩師からの言葉となると、いささか「しっかげきれい」された気がする。若い学者諸君もこの活力と情報選択能力を養ってほしいと念願する次第である。

(三浦四郎衛 記)

幹事会要旨 (平成3年1月)

1. 第127回医学会総会が平成3年6月7日(金)、8日(土)に開催されることが決定した。
当番教室 薬理学教室、産科婦人科学教室。
2. 臨床懇話会開催報告並びに予定の報告があった。
3. 編集状況の報告並びに編集について討議した。
4. 業績目録について、48巻特別号の進行状況が報告され、編集について討議した。
5. 平成3年4月の時点で欠員になる評議員及び幹事会役員については、補充することとなった。

編集委員会

三輪 哲 郎 (会 長)
登坂 恒 夫 (副 会 長)
伊藤 久 雄 (")
渋谷 健 (庶務幹事)
山澤 埜 宏 (")
藤巻 道 男 (編集幹事)
小林 春 雄 (")
古川 欽 一 (会計幹事)
内野 滋 雄 (")
勝沼 英 宇 (委 員)
外野 正 己 (")
網野 三 郎 (")
船坂 宗 太 郎 (")
三浦 四 郎 衛 (")
永井 義 一 (")
小柳 泰 久 (")
伊東 洋 (")
河北 英 詮 (")
西里 吉 則 (")
金 兌 貞 (監 事)
内 田 安 信 (")

平成3年2月20日 印刷

平成3年3月1日 発行

東京医科大学雑誌 第49巻 第2号

発行者 三輪 哲 郎

発行所 東京医科大学医学会
(東京医科大学総務部企画調査課内)
東京都新宿区新宿六丁目一番地一号
TEL (3351) 6141 (代)

印刷所 共立印刷株式会社
東京都中央区新川2-23-9
TEL (3551) 9891 (代)